「D&D2012」 特集号発刊にあたって*

西村 秀和^{*1}

Special Issue on Dynamics & Design Conference 2012

Hidekazu NISHIMURA^{*1}

^{*1} Graduate School of System Design and Management, Keio University,
4-1-1, Kohoku-ku, Hi-yoshi, Yokohama 223-8526, Japan

Dynamics & Design Conference (D&D) は、機械力学・計測制御部門主催の講演会で、毎年約 600 名の研究者・技術者が参加して活発な情報交換が行われている。2012 年 9 月 18 日から 21 日に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された D&D2012 では、総合テーマを「システムを考える。境界を越えて。」とした。部門が大きくなるにつれて細分化されてしまった専門分野の境界を越えることをねらい、24 のオーガナイズドセッション (OS) を 10 の研究領域に再構成するとともに、部門や国の境界を越えることを意図した。

付随行事としては、日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏による特別講演「人間が介在するシステムのデザインとマネジメント」、韓国機械学会との連携による Sungkyunkwan 大学の Yeon-Sun CHOI 氏による特別講演「Nonlinearity and Experiment in Mechanical Engineering」のほか、5 件の基調講演が開催された。「スポーツ・アンド・ヒューマンダイナミクス専門会議」との連携により企画された、市民公開講座「ランニングのバイオメカニクス (理論と実践)」では、筑波大学准教授で、日本陸連科学委員会副委員長でもある榎本靖士氏を講師にお招きし、講座の中でランニングを体験できるようにした今までにない試みである。また、例年行われている「v_BASE フォーラム」では、多数の若手研究者の参加を呼び込み、実務技術者との交流を促すことができた。D&D2012 での研究発表講演数は 384 件、上記を含めて依頼講演 7 件で、参加登録者数は 661 名であった。24 件の OS を再構成した 10 の研究領域は、振動基礎・非線形振動・パターン形成、耐震・制振・ダンピング、音響・騒音、ヒューマン・スポーツ・バイオ工学、モード解析・動的計測、スマート構造・評価診断、最適設計・シェル構造・折り紙構造、ダイナミクスと制御、流体関連振動・ローターダイナミクス、工学教育で、これらの他、ダイナミクスに関する一般セッションが実施され、非常に活発な議論や意見交換がなされた。なお、同一の領域内の OS の連携がとりやすくするよう配慮し、極力これらが並列に開催されることのないように講演プログラムを工夫した。

D&D の特集号は D&D2007 から開始され今回が 6 年目になる。各特集号とも約 40 編の論文が掲載され、機械力学・計測制御部門の最先端の研究動向がわかり、多くの研究・技術者に利用されている。今回の D&D2012 特集号も、さまざまな面で活躍する研究・技術者から大いに利活用されることを期待している。最後に、D&D2012 の開催にあたり、依頼講演や部門を越えた企画をお引き受けいただいた方々、運営にご協力いただいた方々、本特集号の執筆者の方々、企画小委員会、論文編修委員会の委員の方々に感謝の意を表します。

「D&D2012」企画小委員会

主査 西村秀和 (慶應義塾大学) 委員 吉村卓也 (首都大学東京)、中野公彦 (東京大学)、山崎徹 (神奈川大学)、高橋正樹 (慶應義塾大学)、川合忠雄 (大阪市立大学)

* 原稿受付 2013 年 4 月 15 日

^{*1} 正員、フェロー、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1)

E-mail: h.nishimura@sdm.keio.ac.jp